

特定非営利活動法人
エイズ孤児支援NGO・PLAS

PLAS POST

DECEMBER,
2019

2019



 PLAS

エイズによって影響を受ける子どもたちが未来を切り拓ける社会を実現する

活動のハイライト

この1年で支援を届けた子ども

856

2019年度は、ウガンダとケニアで213家庭、856人の子ども（直接受益者と間接受益者の両方を含む）、若者50人に支援を届けることができました。

この1年で支援を届けた家庭

213

新しく始まったウガンダでのユースの技術訓練事業では、18歳~28歳までのHIV陽性者の若者50名が参加しています。とてもパワフルで、自分たちの生活を向上させたいという強い熱意を持っています。

この1年で支援を届けたユース

50

事業では受益者が支援終了後も、自分たちで継続的にビジネスや農業を続けられるようにグループ貯蓄を導入しています。受益者の全員がグループ貯蓄のアイデアに共感し、支払いが遅れながらも、少額の貯金をすることに成功しています。

グループ貯蓄を続けている人の割合

100%

教育費の支払いや急な病気での出費が必要になった時に貯蓄があるかどうかは生死に繋がる問題です。支援している間だけでなく、支援が終了したあとも引き続き、貯蓄を続けて安心できる生活がおくれるように、フォローアップを続けていきます。

代表挨拶

本年も、温かいご支援や応援を頂戴し、心より御礼申し上げます。HIV陽性のシングルマザーとエイズ孤児たちを支援していく中で、人の可能性に改めて気づくことがたくさんありました。ご支援くださるみなさまや現地パートナー、PLASのスタッフと共に、こうした希望や希望のタネが生まれるお手伝いをアフリカでできることをうれしく思います。

(代表理事 門田瑠衣子)





PLASはSDGsに取り組んでいます



アフリカでの活動一覧

国	プロジェクト
---	--------

ウガンダ

- カフェ・ビジネスによるシングルマザーの生計向上事業(CAFE)2期、3期
- HIV陽性シングルマザーのための子どもの教育・発達への理解と行動を促すカウンセリング支援
- HIV陽性者のアドヒアランス向上支援(PATH+)
- HIV陽性ユースのための技術訓練事業(BRIGHT)
- HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援(SHINE)

ケニア

- 養鶏ビジネスによる家庭の生計向上を通じたエイズ孤児支援事業
- エイズ孤児と保護者に対するライフプランニング支援事業(SCOPE)1期、2期、3期
- OVCと保護者を支える生活向上支援事業—在来種野菜と樹木の栽培を組み合わせた農業活動の導入を通じて(FRESH)1期、2期

ウガンダでの活動

働く楽しさを知り、生活が変化していく。このプロセスを通して、シングルマザーと子どもたちが前向きになっていく姿に、日本にいる私たちの方が勇気をもらっています。



カフェの前で撮影。右から2番目がエスタさん

2019年1月からカフェ事業に参加しているエスタさんを紹介をします。

38歳のエスタさんは、小学校と高校に通っている子どもが二人います。エスタさん自身は、小学校しか卒業していないため、子どもたちには高校へ行ってほしいという強い想いをもっています。

カフェ事業に参加する前は、農家から野菜を買って、市場で販売していました。しかし、300円程度しか収入を得ることができない月も多く、教育費は常に遅れて払う状況でした。

カフェ事業に参加して、ビジネスを始めることに不安があったようですが、持ち前の明るさで固定客をつくり、今はお店のリーダー的な存在になっています。

朝から晩まで働いていますが、働くのはとても楽しいです。

自分で得たお金で今まで我慢していた石鹸やお肉や魚が買えるようになりました。子どもの教育費も払って、貯蓄もできて、生活が一転しました！

エスタさん

カフェ事業

カフェ事業を実施しているルウェロ地域では、小学校には90%程度の子どもが入学するものの、3割以上の子どもが経済・社会的な理由からドロップアウトしてしまいます。特にHIV陽性者は食料不足のため、副作用を恐れ、薬を定期的に飲めず、長期にわたり、体調を崩すことがあります。

そのため、安定した収入を得ることも難しい状況です。そのような悪循環を断ち切りために、カフェ事業が立ち上がりました。3人グループでビジネスを行うため、体調が悪い場合や農業に従事しないといけない時期は、交代でお店を切り盛りして、安定した収入を得ることができます。

BRIGHT事業

2019年4月より50名のユースに技術訓練研修とビジネススタートアップの支援を行いました。ヘアードレッシング、ネイル、ノート作りや農業の技術を身に付けて5人1グループとなり、住んでいる街でビジネスを開始しています。初めてビジネスを始めるユースはビジネスの厳しさを実感しているようです。



PATH+事業

HIV陽性者の治療環境改善のために、ヘルスセンターで働くひとたちへ、患者へのカウンセリングスキル研修を実施しました。また、HIV陽性者のグループは栄養改善を目的とした農業の研修を提供しました。



SHINE事業

HIV陽性者グループであるカユンガのメンバーに引き続き、農業指導と貯蓄活動の支援をしました。経験を積み重ねて、安定的に野菜を収穫できるようになりました。グループ貯蓄活動では、PLASの介入なしで運営できるようになり、教育費や今後のビジネスのために、毎月貯蓄を続けています。



ケニアでの活動

子どもたちが明日を信じ、将来を前向きに考えられるように、まず保護者を支えることが必要だとPLASは考えます。大人たちと共に子どもが育つ環境をつくっています。



ユニスさんとケルビンくん。学校に行く途中の道で。

保護者のユニスさんと小学校6年生のケルビンくんを紹介します。

ユニスさんは46歳で4人の子どもと暮らしています。2005年に体調が悪いと病院を訪れたときに、HIVに感染していることを知りました。夫はエイズ関連の病気で既に亡くなっています。

ユニスさんは、現在、現地の植物を使った農業用のロープを作って販売して、生計を立てています。ユニスさんは偏見を乗り越え、家族に自分がHIVに感染していることを伝えています。毎日抗HIV薬を飲んで体調が落ち着いているようです。

現地パートナー団体が実施した個別カウンセリングでは、子どもとのコミュニケーションを学び、宿題をどこまでやったのかを一緒に確認するようになったそうです。

ケルビンは警察官になりたいと言っています。キャリアトークで、警察官の方が講師となり、直接を聞くことができたことが大きなきっかけになったようです。

明確な目標ができ、日々の勉強も意欲的に取り組んでいます。

ユニスさん

FRESH事業

2018年に終了した農業技術支援事業の受益者に会いに行ってきました。例年より雨季の遅れることもあり、思った通りに野菜を収穫できない時期もありましたが、研修で学んだ乾燥に強い在来野菜を植えて、自家消費できる野菜を確保できています。

多くの家庭は余剰分を販売し、得た現金で魚や肉を購入したようです。また、2019年5月～6月に実施したクラウドファンディングで、新しい受益者25名を支援することが決定しました。受益者には、孤児となった孫を預かって、保護者代わりのおばあちゃんもいます。栄養価の高い野菜を家庭栽培できれば栄養改善と食費を抑えることができます。



SCOPE事業

「子どもたちが自分の夢を持ち、保護者とその夢と一緒に考える」ためのライフプランニングのカウンセリングを、子どもと保護者にカウンセリングを実施しました。また、異なる5職種の方に来てもらい、自分の職業選択の理由や仕事の内容を話してもらってキャリアトークを実施しました。

また、保護者向けには、高校や職業訓練校から先生を呼び、中等教育説明会を行いました。ほとんどの親が高校に入学したことがないため、どのような準備が必要なのかをこの場で知り、日頃の疑問を解消することができました。

草の根での活動を

2019年1月に入職して、現地へ2回渡航しました。たくましいお母さん、元気があふれる若者や夢を持つ子どもに会い、沢山の元気をもらいました！その一方、当会が支援できていない苦しい生活を送っている家庭も目撃しました。子どもたちが安心して暮らせる社会を作るために引き続き、草の根で活動していきます。

(海外事業マネージャー三関理沙)



国内での活動

エイズ孤児が直面する差別や偏見、教育や経済的な困難を日本でも広く知ってもらい、支援の輪を広げるため、さまざまな広報活動、チャリティイベントを行っています。

ご支援いただいた法人の皆様

本年も、企業や個人の様々な皆様にご支援を頂戴し、活動を支えていただきました。心より御礼申し上げます。

*当会との連携・協働に関心を持たれた法人様は、お気軽にinfo@plsaids.orgまでお問い合わせください。

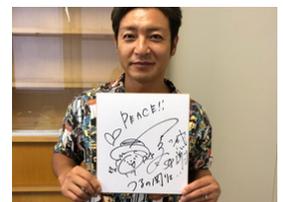
株式会社GME、株式会社三井住友銀行（株式会社三井住友銀行ボランティア基金）※1、カトリック高輪教会、特定非営利活動法人レッドリボンさっぽろ、旭倉庫株式会社、太陽光発電技術研究組合、free株式会社、ヤフー株式会社、株式会社ナチュラルプランツ、Union of Essex Student Union、株式会社アイデアインターナショナル、パッケージアート株式会社、ソフトバンク株式会社、マイラン製菓株式会社、株式会社バリューブックス

※1「日本フィランソロピー協会企業による寄付プログラム」を通してご支援いただきました。（敬称略）

チャリティオークション

2018年11月-2019年2月、2019年7月-9月の二回にわたってチャリティオークションを実施しました。

のべ78名の皆さまにご協力頂いて、多くの方にエイズ孤児の課題と現地での活動を知って頂き、合計5,999,145円のご寄付をお預りすることができました。ご協力頂きました皆さまに心より感謝申し上げます。



神谷浩史、岸田護、北見けんいち、赤星憲広、植田まさし、香川真司、グレー、サタケシュンスケ、澤穂希、嶋村侑、SEKAI NO OWARI、伊達公子、田中雅美、ちばてつや、つるの剛士、ねも太郎、橋詰知久、広末涼子、福山潤、ポテ豆、my、mame&co、八代亜紀、吉永小百合、和田毅、古川愛李、檜崎正剛、川浦良枝、江口夏実、広瀬アリス、紺野美沙子、シゲタサヤカ、安田菜津紀、漆原友紀、アグリム、鈴木大地、角中勝也、絵子猫、爆笑問題、高橋留美子、蛭子能収、一ツ山チエ、葉月かなえ、西田敏行、二ノ宮知子、久米田康治、安達祐実、こげどんぼ*、シシド・カフカ、ナオト・インティライミ、熊川哲也、中村祥子、山寺宏一、石田純一、三浦友和、コンドウアキ、赤井英和
(順不同・敬称略)

多くの仲間と共に

PLASの活動を共に作り、支えてくださるみなさんの声をご紹介します。



PLASでの成長が糧に

国際協力NGOについて学びたくて、インターンをすることに決めました。興味や力量に合わせた仕事を任せられるので、知識だけでなく、自分で考え工夫して仕事をする力も付きました。現在は貿易の仕事をしており、PLASでの成長が大きな糧となっています。仕事でもたくさんのことを学び、将来国際協力に役立てるようになりたいです。（インターン 水野 真実子さん）



娘と報告を読んでいます

6歳の娘と活動報告を読んでいます。なぜ寄付金を手渡すのではなく、パンやアクセサリーの作り方を学んでもらうのか、不思議だった娘。自立支援のあり方を娘と考えています。今では活動のアイデアまで出るようになった娘にとって、PLASは学びの場です。（サポーター 君塚 裕美さん）



NGOをリードする存在に

年次報告を毎年迎える度に、果たして理事会の役割とは何かを常に考えさせられます。事務局の監督に加え、PLASの理事会は、常にCheck & Balanceを繰り返し行い、中期経営計画立案段階から各年の予算化、事業会計まで、事務局との一体性を尊重し、先進的な運営方法を実施しており、これからもNGO界をLeadする存在になる様に努めて参ります。（理事 鶴見 和雄）

表彰

第2回「ジャパンSDGsアワード」で副本部長（外務大臣）賞を受賞しました。SDGs達成に資する優れた取り組みを行っている企業・団体等を表彰する賞です。また、第6回エクセレントNPO大賞で「課題解決力賞」を受賞しました。



会計報告

法人名: 特定非営利活動法人エイズ孤児支援NGO・PLAS

活動計算書

2018年10月1日から2019年9月30日まで

(単位:円)

科目		金額	
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	96,000	96,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	14,075,277	14,075,277	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	3,954,540	3,954,540	
4. 事業収益			
普及啓発事業収益	450,907	450,907	
5. その他収益			
受取利息	766		
雑収益	267,820	268,586	
経常収益計			18,845,310
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	9,768,198		
法定福利費	1,838,473		
人件費計	11,606,671		
(2) その他経費			
業務委託費	3,909,227		
印刷製本費	7,187		
会議費	47,040		
旅費交通費	2,366,250		
通信運搬費	868,706		
消耗品費	218,946		
地代家賃	152,812		
賃借料	50,268		
保険料	64,320		
諸会費	10,000		
研修費	500		
支払手数料	545,197		
雑費	2,044		
その他経費計	8,242,497		
事業費計		19,849,168	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	1,000,000		
法定福利費	188,210		
人件費計	1,188,210		
(2) その他経費			
印刷製本費	49,673		
会議費	3,553		
旅費交通費	79,546		
通信運搬費	102,404		
消耗品費	28,206		
修繕費	225,297		
地代家賃	1,319,612		
諸会費	15,000		
研修費	51,900		
支払手数料	704,718		
雑費	20,315		
その他経費計	2,600,224		
管理費計		3,788,434	
経常費用計			23,637,602
当期正味財産増減額			△ 4,792,292
前期繰越正味財産額			11,335,656
次期繰越正味財産額			6,543,364

「受取寄附金」には、マンスリーサポーターや個人からの都度寄付、法人寄付のほか、チャリティオークションの寄付などが含まれます。

「事業収益」には、アフリカンクラフトの販売収入、イベント参加費による収入が含まれます。

「事業費」にはアフリカでの支援活動と日本での啓発活動の両方が含まれます。

「業務委託費」は、主に現地パートナー団体と共にすすめる支援事業に係る費用です。例えば生計向上のためのCAFE事業では研修費やカフェ開業費用などはこの部分に該当します。

「通信運搬費」には現地パートナー団体とのやり取りにかかる音声通話のほか、ICTシステム管理費も含まれます。

「支払手数料」には海外送金や寄付の決済の際の手数料が含まれます。

貸借対照表

2019年9月30日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	7,638,118	
流動資産合計		7,638,118
2. 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		7,638,118
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	549,607	
預り金	545,147	
流動負債合計		1,094,754
2. 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		1,094,754
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		11,335,656
当期正味財産増減額		△ 4,792,292
正味財産合計		6,543,364
負債及び正味財産合計		7,638,118

助成実績

フェリシモ 地球村の基金（株式会社フェリシモ）、テルモ生命科学芸術財団 医療・健康向上貢献助成（公益財団法人テルモ生命科学芸術財団）、あんのん基金（宗教法人日蓮宗）

2020年に向けて

ウガンダで新事業を開始した本年ですが、経常収益は寄付・助成金収入の伸び悩みで対予算達成率は81%に留まりました。2020年度は現地からの報告をより充実させご支援の輪が広がるよう努めます。
(事務局長 小島美緒)



監査報告書

監査報告書

特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS
代表理事 門田 環衣子様

2019年12月15日
監事 藤本 俊明



私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS の2018年度（2018年10月1日～2019年9月30日）の業務及び会計の状況について監査を実施いたしました。

監査の方法は、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取し、また財産の状況については証拠書類の閲覧、照合、質問等を行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理は NPO 法人会計基準及び一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認められた。

以上

Thank You



ご支援、ご協力をお願いします

サポーター

月1000円～の寄付
で子どもたちを支
援するマンスリー
サポーターにご支
援・ご参加をお待
ちしています！



SNSでPLASとつながる

様々なSNSでアフリカから
のレポートやPLASの最新情
報をお届けしています。
ぜひPLASとつながってくだ
さい！



特定非営利活動法人

エイズ孤児支援NGO・PLAS

<https://www.plas-aids.org/>

110-0005 東京都台東区上野5-3-4 クリエイティブOne秋葉原ビル6F
03-6803-0791 info@plas-aids.org

理事：門田溜衣子（代表理事）、一宮暢彦（副代表理事）、加藤琢真、
小島美緒、鶴見和雄、谷澤明日香、横山裕司、藤本俊明（監事）

設立：2005年12月

